

令和6年 11月 15日

（あて先）三鷹市議会議長

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 立憲民主緑風会代表者名 谷口 敏也

1 視察年月日	令和6年11月11日（月） ～ 令和6年11月12日（火） （1泊2日）																																				
2 視察者氏名	<u>谷口 敏也</u> <u>高谷 真一朗</u> <u>岩見 大三</u> <u>おばた 和仁</u> _____ _____ 計 4 人																																				
3 視察先及び 視察項目	<table><tr><td>(1)</td><td>岡山 県</td><td>総社 市</td></tr><tr><td>ア</td><td colspan="2">「英語特区・教育特区」の取組みについて</td></tr><tr><td>イ</td><td colspan="2">「昭和五つ星学園義務教育学校」について</td></tr><tr><td>ウ</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>(2)</td><td>香川 県</td><td>高松 市</td></tr><tr><td>ア</td><td colspan="2">「スマートシティたかまつ推進プラン」について</td></tr><tr><td>イ</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>ウ</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>(3)</td><td>都・道・府・県</td><td>市・町・村</td></tr><tr><td>ア</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>イ</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>ウ</td><td colspan="2"></td></tr></table>	(1)	岡山 県	総社 市	ア	「英語特区・教育特区」の取組みについて		イ	「昭和五つ星学園義務教育学校」について		ウ			(2)	香川 県	高松 市	ア	「スマートシティたかまつ推進プラン」について		イ			ウ			(3)	都・道・府・県	市・町・村	ア			イ			ウ		
(1)	岡山 県	総社 市																																			
ア	「英語特区・教育特区」の取組みについて																																				
イ	「昭和五つ星学園義務教育学校」について																																				
ウ																																					
(2)	香川 県	高松 市																																			
ア	「スマートシティたかまつ推進プラン」について																																				
イ																																					
ウ																																					
(3)	都・道・府・県	市・町・村																																			
ア																																					
イ																																					
ウ																																					
4 視察結果等	別紙参照																																				



「英語特区・教育特区」及び「昭和五つ星学園義務教育学校」について

《はじめに》

総社市は、岡山県の南西部に位置し、東部は岡山市、南部は倉敷市の2大都市に隣接しています。人口は69,669人(令和6年10月末日現在)、総面積は211.90平方kmで、地域の中央を北から南に岡山県の三大河川のひとつ高梁川が貫流しています。年平均気温は16.5℃前後、雨量は年間1,000mm前後で、瀬戸内海特有の温暖、少雨の恵まれた気候です。

岡山県唯一の五重塔がそびえる備中国分寺やこうもり塚古墳など、古代吉備文化を色濃くとどめる吉備路風土記の丘を中心として、謎の古代山城「鬼ノ城」などの歴史的観光資源を有しています。

《事業の誕生》

総社市では、コミュニティの円熟、豊かで身近な自然を生かし、幼小中一貫教育を志向してきた一方で、人口減少の加速や学校規模の縮小という問題に直面し、その解決策のひとつとして、平成26年度4月から、総社市内の山田・昭和・維新地区にて「英語特区」を始め、平成28年4月からは池田幼稚園・池田小学校にて「英語・体育特区」を、新本幼稚園・新本小学校にて「英語・音楽特区」を取り入れ、総社市の「教育特区」として拡充しています。

また、令和6年4月からは市で初めての幼稚園併設型義務教育学校「昭和五つ星学園義務教育学校」を開校しました。昭和中学校・昭和小学校・維新小学校・昭和幼稚園・維新幼稚園の5校園での学園で、キャンパスは幼稚園と旧小学校、旧中学校の3か所になりますが、幼稚園入園から義務教育学校卒業までの12年間を通して、子どもが自ら未来を切り拓く力を育む学園を目指しています。

《総社市教育特区のねらい及び概要》

- ① 対象の幼・小・中が連携し、一貫性のある特別な英語教育を提供することにより、豊かなコミュニケーション能力と、国際的な視野を身に付けた人材を育成する。
- ② 総社市が誇る山紫水明の地、山田・昭和・維新・池田・新本地区で、幼少期から豊かな自然と日常的にふれ合うとともに、外国人や地域の方々と関わり合う体験を通して豊かな人間関係を養う。
- ③ 昭和五つ星学園義務教育学校での9年間で、一般校より約250時間多い英語の事業を実施する。ALTを専任配置し、日常的にネイティブの発音に触れる機会を増やし、英語力の向上を目指す。
- ④ 英語・体育特区(池田地区)では体を動かす心地よさを十分に感じ、食育などを通して健康に生活する力を育む。英語・音楽特区(新本地区)では幼少期から生の楽器演奏に触れるなどして、音楽に親しみ、豊かな感性を育む。

《教育特区関連事業》

- ① オーストラリアのメルトンセカンダリースクールとの姉妹校交流事業の実施。
- ② 夏休みに約 10 日間の総社市海外ホームステイ事業の実施。
- ③ 総社市と包括提携を結んでいる、青山学院大学の講師が指導・支援を行う。
- ④ 川崎医療福祉大学の協力のもと、陸上運動・水泳運動・器械運動・幼児体育の専門的な指導を受ける機会を設ける。
- ⑤ 体力づくり・健康づくり等の取組みを、保護者や地域と協力して行い、大学とも連携を図る。
- ⑥ くらしき作陽大学・作陽短期大学の協力のもと、日常の音楽指導の充実を図る。
- ⑦ 新本地区に伝わる伝統行事「義民祭」における、子どもたちによる演劇「オペレッタ義民さま」の取組みにおいて、大学の指導を受ける。

《まとめ》

日本の英語教育においては、中学校から大学までの10年もの間授業を受けても、日常の英会話がまともに出来ない人が多いと言われています。社会に出て必要とされている「コミュニケーション能力」と「英会話力」の育成について、我々立憲民主緑風会としては、三鷹市の教育活動の中で拡充しなければならないと考えていることから、今回 10 年前から英語特区を取得し、より実践的な英会話を含めた英語教育に力をいれている総社市を視察させて頂きました。

英語に重点的に取り組む学校として、総社市が英語特区に指定し、学校の取組みを広く広報すると共に、積極的に英語の授業を公開していました。参観日やオープンスクールで英語の授業を実施したり、校内で英語のイベントを開催し、保護者や地域の方々を招いたりするなど、特例校としての取組みや成果の様子を伝えていきますし、ホームページや学校便りでも活動の様子を積極的に発信していることもわかりました。

このような英語特区を取得して行っている英語教育の内容について、今後も三鷹市でも取り入れるよう提言していきたいと考えます。

また、総社市では今年度から五つ星学園を義務教育学校に移行し、更なる教育の充実を図っています。三鷹市でも現在、おおさわ学園（第七中学校・大沢台小学校・羽沢小学校）を義務教育学校に移行することを検討していますので、総社市での取組みを参考に、三鷹市としてどのような義務教育学校への移行が最良なのか、更に調査をしていきたいと考えます。

【スマートシティたかまつ推進プラン】について

《はじめに》

三鷹市は、2022年6月にスマートシティ三鷹（仮称）の実現に向けた基本方針を策定した。

基本方針では、今後、三鷹市が実施していく施策に関して基本的な考え方を取りまとめている。取り組みの方向性として、（１）災害に強く、安全安心なまち、（２）健康で快適な暮らし、（３）子育てしやすい環境、（４）参加と協働の推進、（５）身近でつながるまちの実現を掲げており、着実に取り組みを進めつつある。最近では、フリーアドレス制の導入・拡充に取り組んでいるところである。

香川県高松市は、2019年にスマートシティたかまつ推進プランを策定して、三鷹より少し前に取り組みを開始しているが、2022年には同プランの更新をしている。

スマートシティ推進の先進事例として多くの学びが期待されることから、今般視察を実施したものである。

高松市概要（2024年10月1日現在）

1. 人口 417,868人
2. 世帯数 205,003世帯
3. 面積 375.67km²
4. 1999年中核市に移行、四国の玄関口である。サンポート、栗林公園、屋島、丸亀商店街がある。市長 大西 秀人（2007年～現在5期）

各分野における主な取り組み例

1. 防災分野

- （１） 制御ボックス、水位、潮位センサーの設置
- （２） 防災分野のダッシュボード画面表示（災害対策本部で活用）
- （３） 市民向け防災アプリの開発

2. 観光分野

- （１） 市直営レンタサイクルの自転車1,250台のうち50台にGPSロガーを取り付け、利用者別のショッピング、観光先の分析を行っている。

3. 福祉分野

- （１） 高齢者見守りへのICT活用

産学民官連携の仕組み

1. スマートシティたかまつ推進協議会の設立 会員数現在157人

協議会では、分野ごとにワーキンググループを組成している。

- (1) 農業分野における LPWA「低消費、電力広域通信」を活用したシステムの有効性の検証
- (2) 交通事故抑制を目指したデータ活用実証実験
- (3) 地域住民によるスマートシティの実践を通じた人材育成

2. その他の取り組み

(1) 高松市デジタル匿名チーム発足(2021年)

意欲的な若手・中堅職員を公募

(2) フリーアドレスシティたかまつ

- ・タクシーを活用した新しい交通モード創出に向けた実証事業
- ・災害リスクと防災施設・サービスが見える防災アプリの開発
- ・市民通報ツール(道路の損傷など)
- ・スマホ教室の開設など

《終わりに》

高松市では、上記以外にもさまざまなスマートシティ事業に取り組んできているが、途中で効果を上げるのが難しいなどの理由で継続を断念した事業も多く見られた。スマートシティの取り組みは、現在各自治体が一斉に取り組みを開始しているが、単体で行うのではなく、例えば多摩地域の自治体は連携して取り組むほうがトライ＆エラーの事業が多いことから効率的であると推察される。

今後も他の自治体の取り組みを参考に、三鷹市に対して様々な提案を行っていきたい。

以上